

## 2012～13年度「社会奉仕功労賞」

- 1 岐阜長良川ロータリークラブ  
「災害復興支援プロジェクト 石巻南RCとの桜の植樹」
- 2 岐阜南ロータリークラブ  
「『e コミ防災マップ』立ち上げ協力」
- 3 中津川ロータリークラブ  
「防災運動会」
- 4 津ロータリークラブ  
「神戸新池さかな放流事業」

今年度は事業の一つといたしまして、社会奉仕功労賞を選定しました。

前年度に「新たな奉仕にチャレンジ」に関するアンケートをいただきました中から、今の時代にあった新しい社会奉仕活動や環境保全に取り組み、特に素晴らしい活動をされましたクラブを委員会で選びました。

その結果、上記の4クラブに対してガバナー表彰をしていただきました。

これらの素晴らしい活動報告をクラブへ紹介して頂き、それぞれの「地域の求めている新しい社会奉仕へのチャレンジ」へと昇華して頂くことを期待しています。

詳細を掲載いたしますので、クラブ活動にお役立てください。

## 1 岐阜長良川ロータリークラブ

### 「災害復興支援プロジェクト 石巻南RCとの桜の植樹」

岐阜長良川RC 辻精二

地区協議会の事例紹介 「石巻に桜を咲かせよう」運動

1. 我々のクラブは本年創立 50 年を迎えるクラブで、先輩は多士済々で大変アカデミックなクラブだと思っています。年次計画通りのスマートなクラブ運営が行なわれてきました。  
しかし今度の様な奉仕活動では、臨機応変、我共の好きな「走りながら考える」が必要で、皆様にご理解頂くのに苦勞がありました。
2. 奉仕活動の種は、これまでも例会時に発掘され「石巻へ桜を咲かせよう」運動もその一つです。
3. 我々は、石巻南RCの会員の皆様がリーダーとして地元の人達と一緒にできる、元気が出る事業を立ち上げ、それに我々も参加したいとお願いした結果、桜の植樹となりました。
4. 事業名を「石巻に桜を咲かせよう」として、地元岐阜の皆様の被災地を思うお気持ちを桜に託したいと、チャリティコンペ、フリーマーケット、募金活動を通して約500名の方のご厚志を頂き、資材を購入しました。2012年の3月4日会員20名程で第一回の植樹式に参加しました。
5. これまでに石巻と女川へ約300本の桜が植樹されました。
6. 募金に参加して頂いた皆様へ植樹の報告をする為に、放送局、新聞社、ロータリーの友、ガバナー月信等の紙面をお借りして広報活動を積極的に展開しました
7. 昨年6月に石巻南ロータリークラブの会員ご婦人十数名が来岐頂き懇親を深めました。
8. 石巻南クラブも観桜例会を催される迄になられ、ご招待を頂きましたので

会員ご婦人20名程で石巻を訪問して懇親を深めて来ます。  
北上川河口に広がる石巻市は、長良川中流域にある岐阜とは趣が少し違いますが、独眼竜政宗と天下布武の信長とそれぞれ古い歴史があり、共通点も多く、名所旧跡には事欠かない所であります。

9. 石巻の皆様と一杯飲んだ時、当時を振り返って、ロータリーどころではない時期、岐阜から来てくれロータリアンの強い絆を感じた。

自分の事で目一杯であったが、地元のリーダーとしての責任に気付き、クラブは解散するばかりであったが頑張ってきてよかった。  
今度はそっち（東海沖地震）の番なので、その時は任しといてくれと心強いお言葉を頂いております。

**※以下は、分科会会場にて時間の関係で未発表の大切な部分について補足。**

■「石巻に桜を咲かせよう」運動は石巻南RCへどんな事でお役に立てるか解らなかった。その為のマイルストーン（一里塚）として先方さんと一緒に汗をかき、一緒に酒を飲む中で、本当にお役に立てる事を探し出す機会作りであった。

■実は事業は何でも良かったが、毎年咲く桜が最高の選択であった。

■付帯事業として翌年、女川町の図書館復興の為に、会員緒家に眠っている図書券を集めて贈呈した。

■この事業は、リスクが大きく大変であったが、楽しい苦勞であったとしみじみ思っている。リスクを背負う事で若い会員が、真剣に向き合い素晴らしい知恵を出してくれた。これこそ退会防止の妙薬だと先輩と語っている。

■10年前に米山奨学生の提案で行った「ミャンマーの井戸掘り事業」を思い出す。

■クラブ全員で出し合った知恵とかいた汗の例

①石巻を訪問するには1泊二日で約10万円掛かる。それを半分で行ける知恵を出した人。お蔭様で20名の会員（全員の40%）が植樹事業に参加してくれた。

②期中の出来事で予算措置は全くないのでどうしようと皆様に相談した。

予備費を使えと提案する人あったが、その時は成功するかどうか判断できなかった。

そんな時、チャリティゴルフ、オークション、街頭募金を行おうと知恵をだした人。

写真パネルを作る人、募金の登りの作る人、募金箱を作る人、それぞれ自発的に進んだ。

街頭募金は、岐阜Aグループの故金ADも参加して、一月の寒空に岐阜駅構内で行った。

お蔭様で、我々の地域502名の方々に募金にご参加頂き、資材の購入に充てられた。

③募金位参加して頂いた方々への「盛大な植樹成功」を報告する為の広報に汗を流した人。

ガバナ一月信 2012.03号、2012.04号、

2012.06 ロータリーの友、2012.NO71 英語版

2012.03.05NHKの朝のテレビ3回放映（宮城県版）、朝のラジオ（全国版）

2012.03.06 中日新聞

2012.03.11 岐阜新聞

2012.03.14 石巻かほく新聞

④2012.03.05 桜の植樹式へ参加出来ない人へ如何するか考えた人。

寒い時に寒いところへ行けない会員の方々に、桜に絵馬を飾る事を提案した。

行けない方々、ご家族の為に臨場感の溢れるビデオの制作を提案した。

スマートホン、カメラ、ビデオで撮影された映像をもとにテロップを追加して作成。会員、ご家族へ何度も、何度も、放映した。（クラブ内広報）

心は  
共に 14

## ロータリー、多岐にわたる活動

### 「東北、石巻に桜を咲かせよう

岐阜長良川RC会長 辻 精二

それは一本の電話から始まりました。当クラブの会員への大学の同級生からの電話でありました。そのロータリアンは3月11日の津波で工場、家屋敷を一瞬にして失い、クラブは会員の半数が同様な被害に遭い、例会も開催できない状況を語られました。日本全国の人々がいずれかの義援金に協力したが、すぐには現地へ届かない。大きな組織への寄付も大事だが直接の支援も必要ではないかと、そのような内容の電話であったとクラブで報告されました。

当クラブでは、有志の会員が集い、今こそ汗をかく奉仕が必要であると全会員に呼びかけ募金を開始しました。会員の方々のありがたい心をいただき、昨年6月初旬に義援金と救援物資を持って石巻へ向かいました。本年1月再び伺った折に、ロータリーどころではなかったのびっくりしたが、おかげさまで、毎年の事業である東南アジアの学生を、今年も3人迎えて学んでもらう機会を提供できたとのお話をいただき、お役に立てたことをうれしく思いました。

今年度、岐阜長良川ロータリークラブ(RC)は、災

害復興支援プロジェクトを創設し、石巻南RCと、ご支援できないかと相談してきた結果、両クラブの協同事業として、全市が被災した石巻市の中央にある羽黒山公園に桜を植樹することになりました。私たち岐阜長良川RCの所在地域である岐阜市の皆さまが東北を思いやる気持ちを桜の苗木に託し「東北、石巻に桜を咲かせよう」と運動を開始しました。

この計画を実現するために、昨年12月6日会員参加のチャリティーコンペ、12月25日会員、会員家族参加のオークションと募金、本年1月21日JRC岐阜駅前での街頭募金で、市民の皆さまの東北への関心の深さを痛感しました。

結果はゴルフコンペ、オークションを通して会員・家族延べ100人のご厚志、街頭募金では延べ402人の市民のご厚志をいただきました。これまでに500人を超える皆さまからいただいたご厚志で、桜の苗木および植樹用資材を用意し、震災から1年を前にした3月4日、会員21人が、桜140本および資材を携えて石巻へ赴き、石巻南RCの作業計画に従って、会員および地元の小学校、高等学校の児童、生徒たちと一緒に植樹しました。

当日は、羽黒山鳥屋神社境内に120人が集合し、開会のあいさつを皮切りに、全員で桜苗木、資材(添え木など)を敷地内の市営羽黒山公園へ運び作業を始めました。あちらこちらに小学生から大人まで、いろいろな組

み合わせのチームが出来上がり、植樹用の穴を取り囲んで、腐葉土を投入、30kgある桜の苗木を持って大きな穴に挑戦する子どもたちを助ける高校生や大人たちのほほ笑ましい光景が見られました。最後に、学生が願い事を書いた木板を取り付けて完成しました。

この協同事業の結果、数年後には桜が満開となり、石巻に新しい桜の名所が出現すれば、少しは被災された方々の慰めになるのではと考えています。(第2630地区 岐阜県)



平成24年 6月号

ロータリーの友 23

是非、我々のクラブにメーキャップにお越しく下さい。例会後にこの後のお話を詳しくさせていただきます。

以上

2 岐阜南ロータリークラブ  
『e コミ防災マップ』立ち上げ協力

岐阜南RC 小野伸秋

## 行政情報を活用して、地域でマップづくり

### 地域の情報共有が必要

少子高齢化社会は、人々のつながりや連携がますます重要になります。

#### 1) 独居高齢者の見守り

日頃から、だれが誰を見守るのか、地域のみんで分担・協力するために、みんなが知っていかなくてはなりません。

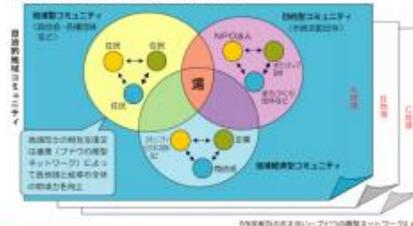
#### 2) 災害時の共助

逃げ遅れている人はいないかを確認  
どの避難所にも逃げてきていない人は、助けに行く。

#### 3) 地域のコミュニティづくり

地区ごとの人のつながりや、同じ目的を持って活動する人たちのつながり、そして地域と企業とのつながりなど、さまざまなつながりを維持して、住み良い町に。

市民相互の支え合い・ドワの繋ぎネットワーク



### 地域の情報共有には マップづくりが有効

羽島市竹鼻南コミュニティセンターで、話し合い、みんなで考えながらつくられた、マップです。

#### 過去の災害をつたえて防災力向上 「51年災害を伝えるマップ」



県から提供された災害写真、市役所作成の災害実績図、地域の体験談で災害を伝える

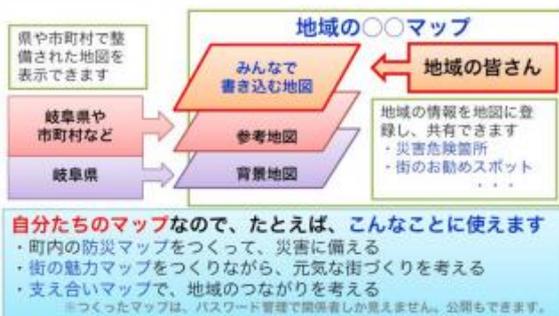
#### 災害が起きたらどう行動するか考える 「第一避難所・防災井戸マップ」



災害時にどう行動すれば良いかをみんなで考え、身近な避難所を決めた。災害時に使える井戸も明示

### 地域の課題を マップで考えるための 地図情報プラットフォーム

地域の情報マップを集めて、地域で活用する。  
インターネット地図を使う情報システムです。



自分たちのマップなので、たとえば、こんなことに使えます  
・町内の防災マップをつくって、災害に備える  
・街の魅力マップをつくりながら、元気な街づくりを考える  
・支え合いマップで、地域のつながりを考える  
※つくったマップは、パスワード管理で関係者しか見えません。公開もできます。

- ・行政機関から提供されるマップ情報を活用する。
- ・地域ごとに、課題ごとに、自分たちのマップをつくる。
- ・マップを見ながら、みんなで意見交換して、一緒に考える。

こんな仕組みが地域で使えたと便利。

地域に対しての「地図情報プラットフォーム」の提供やNPOへの支援は、  
地域貢献となります

ちょうど東日本大震災の時に東京に居りました。その後、福島に行く予定でしたが、情報が取れない、車が入れない。こんな時にどうするかということで、防災科学研究所が、災害が起きた時にどうするかということで、書き込み地図というものを作りました。それが元になったシステムです。

みなさん使ってくださいとのことです。ファルコンさんや岐阜大学と協力してこれを地元を広げようと、本当に震災になった時に自分がどうすべきかを考えた時にシュミレーションすべきだということです。シュミレーションするには、GISが一番便利です。今は、皆さんスマートフォンをお持ちです。どこからでも見ることができ、書き込みもできます。そのお手伝いをNPOなどいろんなところがやっていますが、できないところを私たちロータリークラブができればいいのではないかとということで紹介させていただきます。

地域の情報を共有するというのが一番難しい。皆さん自分の住んでいるところを考えてみてください。津波が来たらどこへ逃げるかとか、独居老人がどこにいるかとか、水害にあった時にどこに避難するのかとか、地域毎で把握すべきです。起きた時にどうなるの？ということのを誰も何も考えていないことが多いのが現状です。行政が作ったものは、絵に描いた餅で、実際には使えないものが多いです。

マップ作りをファルコンさんや大学やNPO、などと共同研究を始めています。資料をご覧ください。また、今年から、フリーで使えるようなものを作っていますので、もしみなさんが使いたいと思われましたら、大学やファルコンさんのほうへ電話、メールなどしてください。対応していただければと思います。

例えば、自分たちの地域でやってみたいとかいう要望に応じて説明会など、今色々なところを回っています。ファルコンさんは各地のデータベースを持ち、岐阜、愛知、三重など回っています。データベースがあれば、易く地域ごとにeコミマップができるということがわかっています。

平坦地で、水害があったらどうするか、ということですが今は高さデータが簡単に取れます。行政はそういう地図を持っていますが、その地図を活用して

避難場所が本当にそこでいいのかということも地元でシュミレーションせずに行政が適当にいいだろうとしてしまっているところがあります。

今、行政側が地図情報をただで使ってください、と国が共有空間を作るための地図を無償で配布する事業を行っています。ですので、市町村も地図をほぼただに近い状態で取れますから、それをベースに自分たちが書き込む情報さえ作れば、自分たちの地図ができる。それも、自分たちの作りたい地図ができる。その意味で有効だということが言えます。

昭和51年の9.12災害の時、僕は墨俣町の職員だったので、一か月間風呂も入らずに救援物資を運んだという経験があります。あの時、どこまで水が来るかということを知りませんでした。だから、車を堤防の上にもあげずに、車をドボンと浸かせてしまいました。下から水が押し寄せてきました。

当時、ここまで水が来たという水位標を立てましたが、のど元過ぎれば熱さ忘れる、で立っていません。津波の起きた所も、今立てようといっていますが数年すれば、またわからなくなります。それらも含めて、そういった情報をどうするか。教育の場で、小学生や中学生に自分たちで作ってもらったらどうかということで、試みとして大学やNPOなどが一生懸命やっています。

こういったことの活用のお手伝いがロータリーでできればいいなということで、試みをやろうとしています。また、こういったものを作ることにより小学生の頃から、この辺りはどうだとか地域のことがわかったりするので組織的に、教育の場に持っていくことも有意義なことだと思っています。

また、災害が起きた時、私は東日本大震災の時東京で、まったく動きが取れなくて、地下鉄は動かず、車も動けず、家にも帰れず、泊まるどころもなく、会社の中に女性も男性もごろ寝で過ごしました。こんな事が起こるということを、自分の会社でも、地図を含めて考えると、いいだろうと考えています。

今年の12月までは、システムも自由に使えますので、皆さんも興味があれば、地元でやっていただければ、いいものになるのではないかと考えています。連絡先も書いてありますので、是非連絡していただければと思います。

## 「地図情報プラットフォーム」の利用研究

### 研究の目的

地域コミュニティ・学校・企業などで、防災・まちづくり・福祉などについての地域のマップを作成することは、地域の課題に気づき、それらの解決方法を検討するために役立ちます。

本研究では、そのような地域におけるマップづくりにおいて、どのような地図情報が役立つか、そしてインターネット地図を利用することにおける課題は何かを検討します。

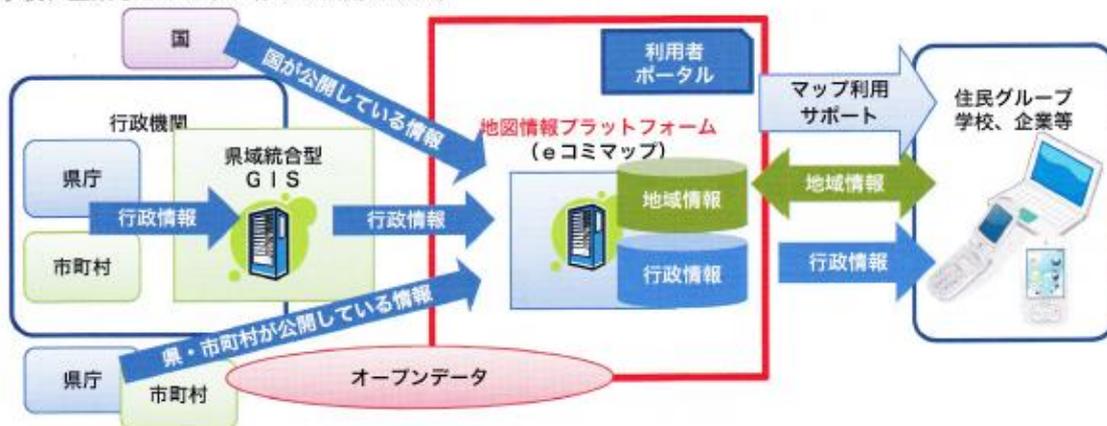


### 研究の内容

「地図情報プラットフォーム」として専用のWebGIS「eコミマップ」を構築・運用し、岐阜県の県域統合型GISよりデータ配信を受けるとともに、利用者のGIS活用に役立つデータを登録します。「地図情報プラットフォーム」の利用者を募集して活用事例をつくり、利用場面ごとにどのような地図情報が役立つかについての検討およびWebGISによる地図情報の収集・配信における課題の検討を行います。主な利用パターンは、市町村が介在した地域のマップづくり活動における活用、小中学校、高校におけるマップを活用した授業、民間団体や企業から行政機関への情報提供を想定しています。

### 地図情報プラットフォームの概要

行政機関などから提供された地図情報を「地図情報プラットフォーム」に収集し、地域の住民グループや、学校、企業などのマップ作りに活用します。



### 地図情報プラットフォームの利用イメージ

行政機関などから提供された地図情報を下敷きにして、地域の情報を書き込んでマップをつくります。マップづくりを通じて、地域の問題解決を考えることができます。

#### 利用例

- ・ 町内の防災マップをつくって、災害に備える
- ・ 街の魅力マップをつくりながら、まちづくりを考える
- ・ 支え合いマップで、地域のつながりを考える



※つくったマップは、パスワード管理で関係者しか見えません。公開もできます。

## 研究概要：「地図情報プラットフォーム」の利用研究

### 目的

地図情報を収集・配信する「地図情報プラットフォーム」を構築・運用することにより、地域や学校の防災活動や民間企業の行政業務にどのような地図情報が有効かを検討する。  
また、WebGISにおける地図情報の収集・配信における課題を検討する。

### 内容

「地図情報プラットフォーム」として専用のWebGIS「eコミマップ」を構築し、岐阜県の県域統合型GISよりデータ配信を受けるとともに、利用者のGIS活用に役立つデータを登録する。  
「地図情報プラットフォーム」の利用者を募集して活用事例をつくり、利用場面ごとの必要な（役立つ）地図情報の検討およびWebGISにおける地図情報の収集・配信における課題の検討を行う。

### 実施項目

- 1) システム構築・データ登録
  - ・ WebGIS「eコミマップ」による「地図情報プラットフォーム」の構築および県域統合型GISからの背景図・主題図の引用表示
  - ・ 国が公開している地図情報の登録、各方面から提供された地図情報の登録
- 2) ホームページ開設
  - ・ 「eコミグループウェア」によるホームページ開設
  - ・ 研究紹介、利用できる地図情報の紹介、利用者募集などを掲載
  - ・ 利用事例、利用者活動紹介などを、随時掲載
- 3) 検討
  - ・ 利用者からの意見聞き取り
  - ・ 利用場面に応じた、役立つ情報・必要な情報の検討
  - ・ WebGISにおける地図情報の収集・配信における課題の検討

### 想定するシステム利用者

- ・ 防災マップ・福祉マップ・まちづくりマップ等を作成する住民グループ
- ・ 防災教育など地図を活用した教育を行う小中学校・高校等
- ・ 道路・橋梁のメンテナンスに関わるメンテナンスエキスパート・メンテナンスサポーター
- ・ 行政業務を受託した全面委託業者

### 研究メンバーおよび協力団体

- 研究担当者：岐阜大学流域圏科学研究センター 沢田研究室  
(防災に役立つ情報・コンテンツの利活用検討)  
(株)ファルコン岐阜オフィス (情報・コンテンツの収集およびGISへの登録)  
研究協力者：瑞浪市土木課 (現場情報の伝達におけるGIS活用)
- 協力団体：岐阜県情報企画課・(公財)岐阜県建設研究センター (地図情報の配信)  
特定非営利活動法人ドゥチュウブ (GIS運用・利用者支援)

### 実施期間

平成26年1月20日 から 平成26年12月31日まで

地図情報プラットフォームは、(独)防災科学技術研究所が開発・公開し、岐阜大学と(株)ファルコンの共同研究で使用できるように運用しているインターネットGISソフト「eコミマップ」を使用しています。  
岐阜県の「県域統合型GIS」から地図の配信を受けて、背景地図・参考地図を表示します。

### 本共同研究についてのお問合せは、こちらへ

国立大学法人岐阜大学  
社会資本アセットマネジメント技術研究センター  
(熊田 geolabo@gifu-u.ac.jp)  
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1  
Tel.&Fax.: 058-293-2419

株式会社ファルコン 岐阜オフィス  
(荒川 arakawa@fal.co.jp)  
〒503-0807 大垣市今宿6丁目52番地18  
ワークショップ24 302号室  
Tel.: 0584-77-6170 Fax.: 0584-77-6171

地図を活用する研究に参加してみませんか

# 地図情報プラットフォーム

を使ってマップづくりをしましょう



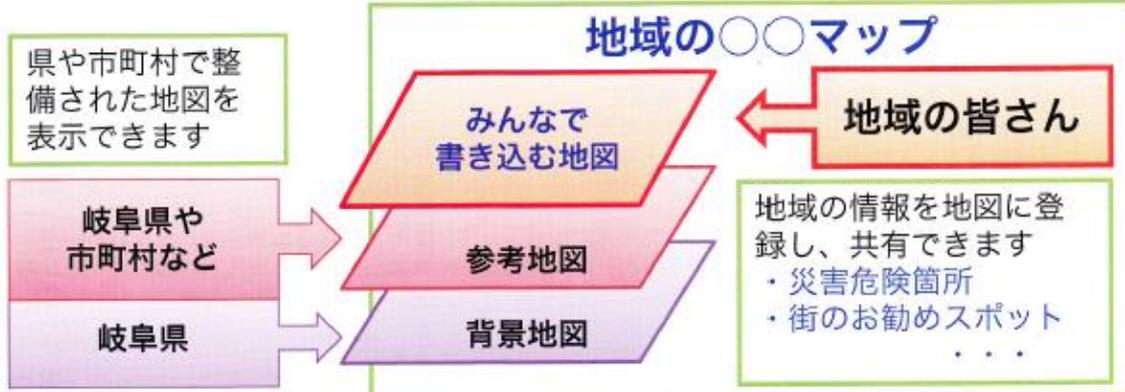
皆さんの地域の情報を書き込み  
できる、インターネット地図です。

地域で役立つ地図情報を集めており、簡単に利用できます。

地域の皆さんが身近な情報を地図に書き込んで、自分たちのマップをつくることができます。

防災やまちづくり、支え合いなど、用途は自由です。

インターネットに接続できるパソコンがあれば、特別なソフトをインストールすることなく使えます。



**自分たちのマップなので、たとえば、こんなことに使えます**

- ・ 町内の防災マップをつくって、災害に備える
- ・ 街の魅力マップをつくりながら、元気な街づくりを考える
- ・ 支え合いマップで、地域のつながりを考える

※つくったマップは、パスワード管理で関係者しか見えません。公開もできます。

地図情報プラットフォームは、(独)防災科学技術研究所が開発・公開し、岐阜大学と(株)ファルコンの共同研究で使えるように運用しているインターネットGISソフト「eコミマップ」を使用しています。

岐阜県の「県域統合型GIS」から地図の配信を受けて、背景地図・参考地図を表示します。

本研究では、どのような地図情報が役立つか、インターネット地図利用における課題は何かを検討します。

**問合せ先：共同研究や募集についてのお問合せはこちらへ**

国立大学法人岐阜大学  
 社会資本アセットマネジメント技術研究センター  
 (熊田 geolabo@gifu-u.ac.jp)  
 〒501-1193 岐阜市柳戸1-1  
 Tel.&Fax: 058-293-2419

株式会社ファルコン 岐阜オフィス  
 (荒川 arakawa@fal.co.jp)  
 〒503-0807 大垣市今宿6丁目52番地18  
 ワークショップ24 302号室  
 Tel.: 0584-77-6170 Fax.: 0584-77-6171

## 募集要項 : 「地図情報プラットフォーム」利用グループ募集

### 研究の目的

地図情報を収集・配信する情報システム「地図情報プラットフォーム」を構築・運用して、地域や学校の防災活動、まちづくり活動、支え合い活動などに、どのような地図情報が役立つかを考えます。

また、インターネットの地図情報システム（GIS）で行政機関などから提供される地図情報を、地域グループの活動で活用するにあたっての課題を検討します。

### 研究の内容

インターネットGIS「eコミマップ」で、「地図情報プラットフォーム」を構築します。

岐阜県の県域統合型GISより地図データの配信を受けます。

利用者の地域活動に役立つ地図データを登録します。

「地図情報プラットフォーム」を地域のグループに活用していただきます。

利用者の意見を伺い、利用場面ごとにどのような地図情報が必要（役立つ）なのかを考えます。

インターネットGISを活用した地図情報の利用における課題を検討します。

### 募集期間

平成26年2月11日 から 平成26年9月30日まで

地図情報プラットフォームをご利用いただくのは、平成26年12月31日まで

### 募集する「地図情報プラットフォーム」利用者

- ・防災マップ・福祉マップ・まちづくりマップ等地域のマップを作成したいとお考えの住民グループ
- ・地図を活用した教育を行いたいとお考えの小中学校・高校等
- ・その他、インターネット地図の活用をお考えの団体

### 利用されるグループなどをお願いすること

- ・「地図情報プラットフォーム」で提供する参考地図を使ってください。
- ・活動内容や参考地図として使いたい地図情報について、話を聞かせてください。  
※研究参加にあたり、打ち合わせ（応募者住所）あるいは電子メール連絡にて、インタビューをお願いします。
- ・「地図情報プラットフォーム」や使われた地図情報等についてのご意見をお聞かせください。  
※活用した感想や要望などについてのアンケートご回答や意見交換会（岐阜市）へのご出席をお願いすることがあります。

### 応募方法

次の内容の電子メールを応募先に送信してください。

件名：地図情報プラットフォーム利用申込み（〇〇〇） ※括弧内は、申込みグループ名

本文：

- ・申込みグループ名、代表者氏名
- ・応募担当者氏名、住所、電話番号、メールアドレス
- ・利用目的あるいは利用されようとしている活動の概要
- ・グループ構成（役割、人数など）

※応募受付は電子メールのみですが、お問合せは、表面に記載の問合せ先にて電話でもお受けします。

### 応募先

arakawa@fal.co.jp （株式会社ファルコン 荒川）

### 費用

本研究への参加費や「地図情報プラットフォーム」利用料は、無償です。

ただし、打ち合わせや意見交換会に参加される場合の交通費等は、各自ご負担ください。

### おことわり

本研究の目的に沿わないご利用のお申し込みは、お断りすることがあります。

地図情報プラットフォームは、システムの都合により一時的にご利用になれない場合もあります。

3 中津川ロータリークラブ  
「防災運動会」

中津川RC 塚田眞一郎

平成 25 年度 中津川ロータリークラブ社会奉仕事業事例発表

防災運動会〈防災体験フェスティバル〉

- 開催日時 平成 25 年 11 月 17 日（日）午前 9 時～午後 2 時  
場 所 中津川市立第一中学校 グランド及び体育館  
主 催 中津地区区長会  
共 催 防災士なかつがわ会  
後 援 中津川市  
中津川市社会福祉協議会  
中津川ロータリークラブ  
運 営 防災運動会実行委員会  
協 力 第一中学校・第二中学校  
目 的 みんなで楽しく学ぶことにより、地域のネットワークを深め、安心・安全な地域づくりに貢献する。  
※南海トラフ地震への警戒が高まっています。「自分の命は自分で守る。  
自分たちの地域は自分たちで守る。」ことがなによりも大切です。  
特 徴 ・防災指定校（防災設備・教育の実施）である中津川市立第一中学校で開催  
・中学生の協力  
・災害時要援護者（高齢者、障害者、外国人）の参加

防災運動会 = 防災体験フェスティバル（防災体験会）  
参加者個人個人にいろいろな防災対策を体験してもらう

- 参加人員 約 700 名  
ロータリークラブメンバー 30 名  
経 費 総額 100 万円（中津川ロータリークラブ拠出）  
・運営費 60 万円  
・寄贈品 大鍋 40 万円（470 人分の炊き出し用）  
終了後中津川市へ寄贈  
参 加 賞（スタンプラリー方式） 「LED 電燈付防災ホイッスル」

- 中津川市立第一中学校グラウンドにて約700名の参加にて、開催
- 中津川第一中学校が防災指定校になっており、防災設備が整っており、防災教育も実施されている
- 運営費は60万円、大鍋40万円全額中津川RCが拠出



#### 470人分の炊き出しができる大鍋



運動会終了後は中津川市へ寄贈  
豚汁アルファ米を炊き皆さんに配布



#### 安心安全搬送リレー 竹2本と毛布を使って搬送



大声競争「火事だー」と大声を出す  
外国人は、「ファイヤー」を音量測定



#### 水パック消火競争 水パックを投げて火を消す訓練



煙体験  
煙発生装置を使い、煙にまかれる体験



### マンホールトイレ体験

マンホールに設置した簡易トイレ体験



### 避難所設営体験

避難所に、プライバシー確保をする為、段ボールでパーティションを作る体験



### AEDによる心肺蘇生と人命救助体験



### 防災紙芝居



### 避難応急便利グッズの作成



### 一中ブース・各組織、団体パネル展示



### 障害者体験・支援ブース



### 新聞記事



4 津ロータリークラブ  
「神戸新池さかな放流事業」

津RC 環境保全委員長 石倉紀男

津ロータリークラブ 環境保全活動 さかな放流事業

|  |  |
|--|--|
|  | <p style="text-align: center;">事業内容 神戸新池 さかな放流事業</p> <p>津ロータリークラブでは、津市内の里山・ため池の環境保全の一環として、神戸新池に日本のため池ならどこでも住んでいる在来魚の放流を行いました。</p> <p>今回放流を行った神戸新池は、農林水産省のため池100選に選ばれた「野田・片田地区のため池群」の一つです。野田地区のため池は地元の皆さんの長年の維持管理で周囲の景観とマッチして、素晴らしい憩いの場として保存されてきました。</p> <p>しかし数年前、新池は池干しで外来魚は駆除され、以来、魚のいない死んだ池の状態が続いていました。</p> <p>そこで、景観だけでなく、日本古来のドジョウ、フナを放流して生きた池にもどして、うるおいを付加したいと考えました。</p> <p>2013年7月28日（日）と11月17日（日）の2回にわけて行い、7月にはドジョウを11月にはフナを放流し、その模様はマスコミ（中日新聞・NHK・三重テレビ）に紹介されました。</p> <p>また、この事業は地元の神戸第二自治会と共同で実行し、学区の神戸小学校の児童・教諭にも参加頂きました。</p> <p>第1回目 2013年7月28日（日） ドジョウ放流<br/>参加者：36名（津RC会員15名、家族7名、神戸第二自治会5名、神戸小学校児童7名、教員2名）</p> <p>第2回目 2013年11月17日（日） フナ放流<br/>参加者：44名（津RC会員16名、家族12名、神戸第二自治会5名、神戸小学校児童8名、教員3名）</p> |
|--|--|

第1回7月28日 日曜日 暑い中集合



放流するドジョウ 水で冷やしているが放流までの1時間元気であるか心配



神戸新池に向けて出発



みんなでドジョウを放流



第2回 11月17日 日曜日 小春日和の中集合



フナも元気



気持ちよく出発



みんなでフナを放流





### 広報活動について

- ロータリークラブの社会奉仕への取り組みを広く知って頂く為の広報活動
- 津市記者クラブへプレスリリースの発信。
- マスコミでの紹介実績
- 第1回放流事業 2013(平成25)年7月28日(日)  
NHK 7月28日 12時 東海地方のニュース  
三重TV 7月28日 18時 三重テレビニュース  
中日新聞 7月30日 津市民版
- 第2回放流事業 2013(平成25)年11月17日(日)  
三重TV 11月17日 18時 三重テレビニュース

